

研修科目	鈴鹿市の多文化共生
分野	その他（日本語教育、母語教育、幼児教育、多文化共生）
コース No.	NL10
研修種別	長期（91 日以上、9 か月以内）
上期・下期	上期
来日日	6/16
帰国日	10/12
提案団体	公益財団法人鈴鹿国際交流協会
提案 URL	www.sifa.suzuka.mie.jp
現職・資格・知識	母国において相談機関・日系社会、移民受入機関等での事業展開に従事されている方もしくは過去に従事経験のある方
経験年数	実務経験 1 年以上
日本語能力	N3
ポルトガル語・スペイン語能力	スペイン語（母語）もしくはポルトガル語（母語）
① 目標	研修員が外国から帰国後の外国人家族に対して行うべき、教育や生活支援について理解し、当該地域で適応可能な支援事業について計画し実施していく力を習得する。
② 成果	①研修員に、国内の外国人受け入れ施策の全体像が理解される。 ②研修員に、鈴鹿市での外国人の受け入れ手法が理解される。 ③研修員により、帰国を考えている在住外国人に帰国後の現状が周知される。
③ 計画（内容）	1. 研修 1) 鈴鹿市における外国人の受け入れについて 2) 地域共生社会推進のための、社会課題と事業について 3) 異文化コミュニケーションについて 4) 日本語研修(桜島日本語教室) 2. 実習 1) 外国につながる児童のための夏休みの宿題支援教室の運営 2) 外国語での相談窓口 3) OJT「ゆかいななかまたち鈴とも」への参加 3. 講演・イベント開催 母国での子育ての現状、帰国日系人の教育課題等(仮) 母語での親子交流サロンの開催
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	本協会には、英語、ポルトガル語、スペイン語の職員がおり、全員 10 年以上の経験を持つ。 本協会の多文化共生事業についての資料は、広く市民に伝えるために使用している日本語の資料がある。個別研修内で細かなところまで伝え、研修員により母語に翻訳し、今後外国籍市民への周知に活用する。 本協会の業務だけでなく、市内団体の事業にも参加することで、日本国内の多文化共生や外国人住民の受け入れや帰国した日系人子弟の教育に関連した事業展開についての知見を深め、帰国後、現地日系社会における活動を円滑に遂行できるようになる。
備考	